

いの町史編さん室だより(No.22)

新緑で野山が鮮やかに色づき、ますますカメラを持って出かけたい季節となりました。

「いの町史編さん室だより」は掲載22回となり、毎回、町史編さん作業で知り得たことや体験したことなどを町民の皆さんに紹介しています。そして、町の合併10周年を目標に「いの町史」の編さんの作業を進め、町民の皆さんが参加する町史づくりを目指しています。町史編さんに役立つと思われる資料・写真などがあれば、是非ご連絡ください。

それでは、町史編さん業務で気付いた話をどうぞ。

編さん業務で気付いた

「歴史に残る地名、字(あざ)名」

編さん委員 中島美恵子

皆さん、ご自宅や周辺の地名、字(あざ)名をご存じですか？

古くから地名、字名は位置や区域を表示するだけでなく、その時点で由来などの意義をもち、当時の人々に理解、納得されてつけられたものと思います。

時代の変化により区画整理などで土地が整備されると、住み良い分かりやすい町へと変わりますが由緒ある地名、字名が消えた土地が多くあります。「地名は歴史の生き証人」と言われるようにいわれある地名が表現する遠い昔の町の歴史を史実に残さなければならないと思います。

いの町全域には由来ある地名が多くありますが、伊野地区のごく一部を郷土史家・岡田明治氏、南路志、長宗我部地検帳の各書物や、地元の人達に言い伝えられてきたいわれを参考に、素人の私が知っている範囲(憶測も含む。)で紐解いてみました。

伊野地区には紀元前の縄文時代から近世まで、生活路や出土品により時代が確認され、またその地名を付けた遺跡が多くあります。長宗我部地検帳には大野郷伊野村地検帳・慶長2(1597)年として、現在とほぼ同じ地名字名が記述されています。

奈良時代には行政基本である郡衛(今の役所、税務署、警察署を合併したような権力を持つ団体)が北内大領に所在し、村を統治していたと推定されています。また仁淀川の川港として栄えていた天神町JR鉄橋付近に駅家(厩)があり、厩ノ尻として後を残しています。この時代には、王朝政治の支配下にあったことを示す律令制の中核となる条里制※の跡が「一ノ坪、コノ坪、一丁田、町田、中村、京田など」として多く残っています。

(※条里制=古代に行われた土地整理で東西、南北それぞれ6町ずつに整地し、東西を条、南北を里と言い、一町単位を一坪として一坪を10反に分割。)

一ノ坪はJR伊野駅の敷地及びその付近であったが、昭和53年3月土地区画整理により、一部が「駅前町」また一部を「新町」と変更、一丁田、コノ坪も同じで変更されました。そのほか次々と駅南町、駅東町、幸町、藤町、大国町、内野など新しい町名になり由緒ある字名は消えてしまいました。

西暦800年ごろ南海道(紀伊、淡路、阿波、讃岐、伊予、土佐)を国府などの公道で連ねて王朝の地へと通じていました。この道に駅家(厩)があり、奥名、是友を通り高知城下へと通じた官道であり、明治19年に現国道33号が開通するまでは、旅人や官吏、大名など人や馬が通る歴史の道でもありました。現在は道路改良され直線に近い道路へと変わり、諸枝・是友線として主要道路となっていますが、起点の諸枝は駅南町となったため字名「諸枝」は消えました。

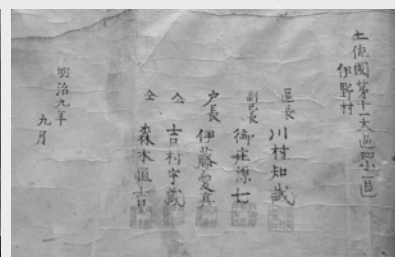
JR伊野駅から南の山、音竹城、バーガ森と続く一帯は遺跡の宝庫です。南路志に岩神の記述があり「古来より岩穴を祭来る、先年は岩神祭に岩穴に這入る、神主言伝に鏡、剣有、また昔檜の大木有、一宮再建の節に材木に仕成由木惜ミ之神故一宮にも此社を建立有。阿弥陀像有」と記されています。現在、奥名住民によって祭日旧暦9月20日に祀られています。

この岩神様より数十メートル北側に平安時代に創立されたとされる別府寺が建立されていました。「別府山威福院正雲寺=開基不知、古八同村南山別府山=有(奥名)別府寺ト号す。寺領8町余。後に正雲寺と改名。明和(1764~68)年中改=金運寺」現在旭町にある金運寺の基であります。

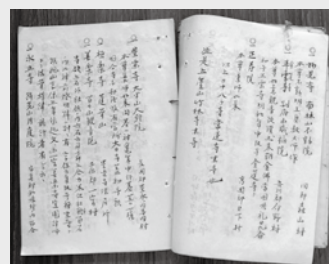
南路志や長宗我部地検帳には、バーガ森の記述が見当たらず、明治に作られた字全図には載っているの、いつの時代につけられたのでしょうか。

音竹城麓には、竹姫神社、奥名には岩神、バーガ森麓には三津姫大明神と女性を祀ったとのいわれのある祠があり、また別府寺もあったことから仏教語で、信仰する人々が戒めを正しく守ると男は優婆塞、女は優婆夷の尊称を受けたことによる発言の変化で「うば」から「バーガ」山であるので、バーガ森になったのではと考えています。

いわれをご存じの方は、お教え頂きたいと思っています。各地区には、約140年前の明治9(1876)年ごろに製作された字図は



明治9年の伊野村字図と文字部分の拡大(右)



土佐國寺院名記 全

あります。しかし保存が疎かになっており、ねずみや虫、破損などにより消滅したところもあり、現状修復できる今の時点で行政の力を用いて甦らせ、貴重な郷土の歴史文化の財産を引き継いでいくことが必要と思われます。是非お力添えをお願いします。



いろんな情報
をお待ちして
います。

いの町史編さん室

問い合わせ・連絡先

社会教育課 町史編さん室(内線31)
☎ 893-2012 FAX 893-2013